

事業名：
長吉線整備事業

所在地：
平野区長吉長原2丁目～長吉六反3丁目

- 目的：
- ・本路線は、本市南東部の平野区から近畿自動車道・大阪中央環状線と交差して隣接する八尾市へ至る東西の補助幹線道路である。
 - ・本区間は通学路指定されているほか、地下鉄谷町線長原駅があり、歩行者自転車交通量が非常に多いにもかかわらず、現道には歩道がないため、交通安全上の課題を抱えている。
 - ・本区間の整備により、自動車交通による近畿自動車道長原インターチェンジ・大阪中央環状線へのアクセス性の向上及び歩道設置による歩車分離により歩行者や自転車等の安全性の向上を図る。

事業内容

道路拡幅

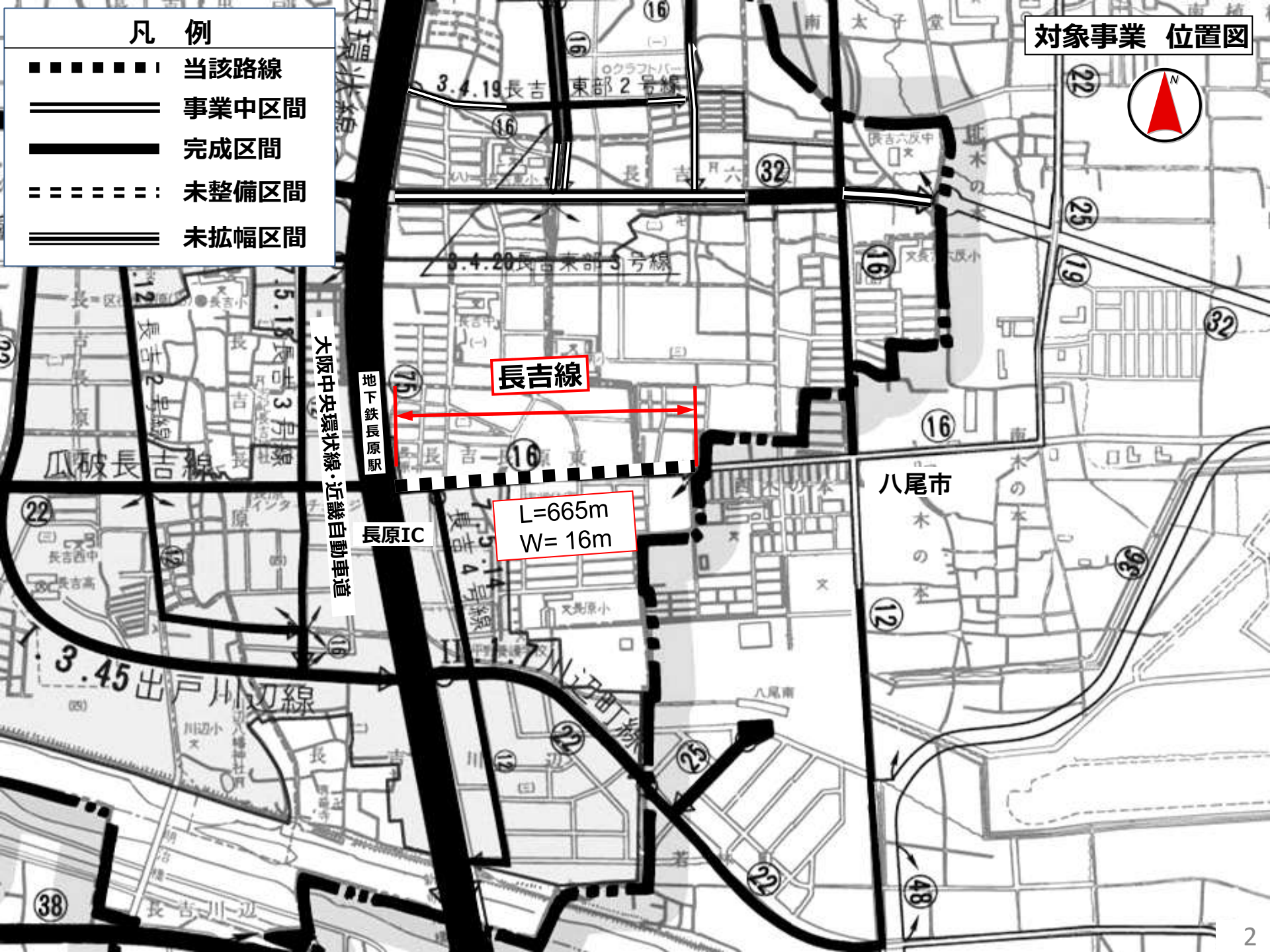
延長 L=665m

幅員 W=16m (片側1車線 歩道あり) 現道幅員 6m



凡 例

- 当該路線
- ==== 事業中区間
- 完成区間
- ⋯⋯⋯⋯ 未整備区間
- ==== 未拡幅区間



長吉線

L=665m
W= 16m

大阪中央環状線 近畿自動車道

地下鉄長原駅

長原IC

八尾市

社会経済情勢等の変化

事業採択時

- 長吉長原東住宅の開発等に伴う交通需要の増加への対応として、地域的な道路網の形成と歩道整備による歩行者の安全性確保が必要である。
- 隣接市（八尾市）との道路ネットワークの形成が重要である。



現在

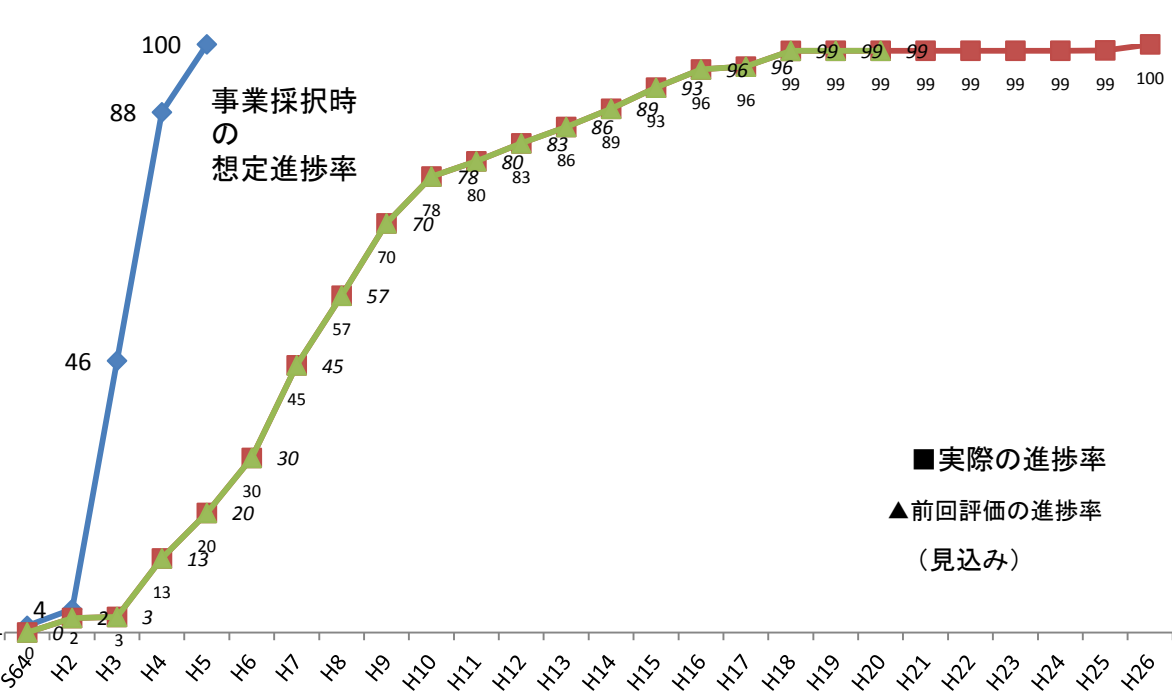
- 長吉長原東住宅の完成に伴い、交通需要の増加しており、地域的な道路網の形成と歩道整備による歩行者の安全性確保が必要である。
- 隣接市（八尾市）との道路ネットワークの形成が重要である。



- 本路線の整備により道路ネットワークを補完するとともに、自動車専用道等へのアクセス性の向上や歩行者・自転車の安全・安心な通行空間を確保する必要性が高まっている。
- 本路線は、重点整備路線以外のその他の路線であるものの用地取得のできた区間から道路整備を行っており、路線として概成しており、残りわずかな用地取得、整備工事を行うことで事業が完了することから、完了予定年度に向けた予算確保に努め、早期完成を目指す。

事業の進捗状況、今後の進捗の見込み

進捗率の推移 (単位：%)



残事業の内容

- ・用地取得 5件 (103㎡)
- ・道路工事 (面積103㎡)
- ・残事業費 約0.3億円

今後のスケジュール (見込み)

- ・平成26年度 事業完了予定

事業が遅延した原因とその状況

- ・用地取得において、近年の下落傾向にある土地価格での売買に難色を示されていることなどで、用地買収が難航し、事業が長期化していた。
- ・財政状況においても悪化しており、年次計画どおりの予算確保が難しく、当初計画に比べ進捗が遅れていた。

対応と解消の目途及びその根拠

- ・本路線は、用地取得の難航により事業が長期化していたが、用地取得のできた区間から道路整備を行い、道路として概成していることから事業効果は概ね発現しており、残りわずかな用地取得、整備工事を行うことで事業が完了する。また、用地取得の目途も立っており、年次計画どおりの予算が確保出来ることで、完了予定年度での完成が見込める。

事業費の見込み

■建設局運営方針

【局の目標（何を指すのか）】

- 安全・安心で快適な市民生活、活力あふれる都市活動を支える都市空間の実現

【経営課題】

- 都市基盤施設の整備が不十分な地域の解消や地震に対する備えが必要である。
- 近畿圏の広域交通ネットワークを強化し、関西の国際競争力強化を図るとともに、都市における円滑な交通の確保、豊かな公共空間を備えた良好な市街地の形成を図る。

【戦略・取組】

- 密集市街地における道路整備
- 淀川左岸線 2 期整備
- 連続立体交差事業（阪急京都線・千里線）
- 都市計画道路の整備

■街路事業の進め方

【重点整備路線・完了期間宣言防災路線】

- 用地取得率が高く、整備効果が早期に発現できる路線として重点的に整備する。
- 地震時における重点密集市街地の被害を軽減するため、防災環境軸の核となる路線を重点的に整備する。

【密集市街地関連路線】

- 密集市街地における防災性向上重点地区のうち、特に優先的な整備が必要な密集市街地（優先地区）内の道路整備を進める。

【他事業関連路線、鉄道・立体交差事業関連路線】

- 他事業と連携して進めることが事業進捗上有利な箇所や、先送りすることの影響が大きく他事業の進捗に合わせる必要がある路線に重点的に投資する。

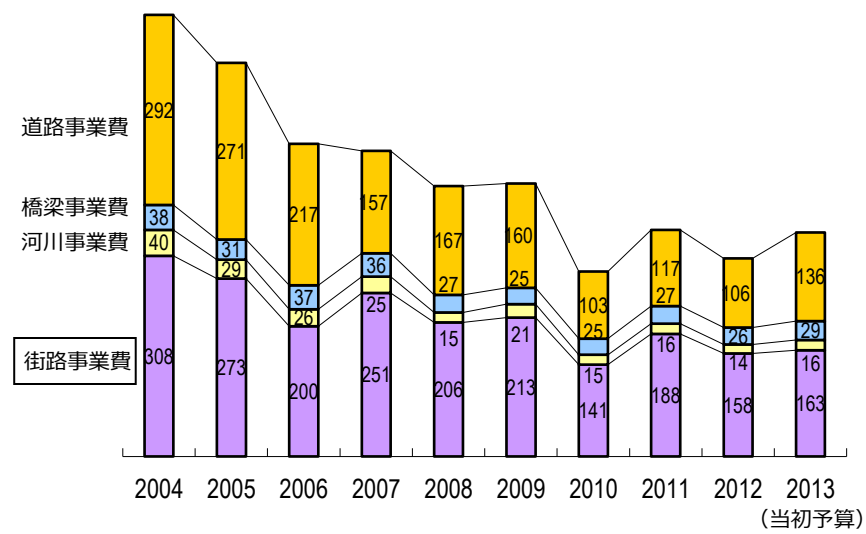
【その他路線】

- 積極的に買収は行わないが権利者の買取要望には対応。
- 重点整備路線の収束にあわせ、次の整備候補路線を抽出する。

■建設局事業費の推移（単位：億円）

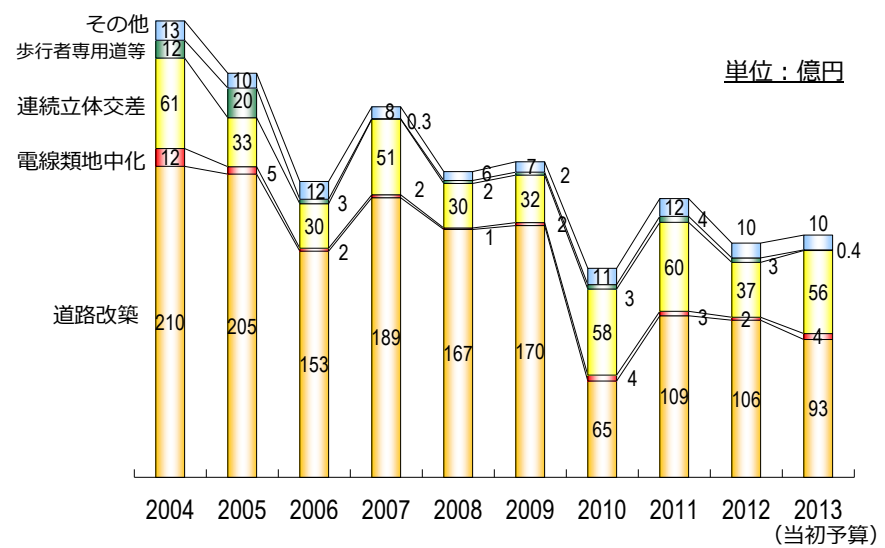
※道路、橋梁、河川、街路事業費のみ

単位：億円



■街路事業費の推移（単位：億円）

単位：億円



事業が遅れることによる影響

事業が遅延する理由（財政面以外）

- ・土地価格の下落などにより買収交渉が難航すると、残る事業用地の確保ができず、事業が遅延する。

事業が遅延することで発生が想定される課題

（事業者の視点）

（利用者の視点）

- ・歩行空間の確保による歩行者等の安全安心の享受や、沿道環境改善による周辺地域への事業効果の享受が遅れる。

（権利者等事業関係者の視点）

- ・都市計画法による建築制限などの私権の制限がかかり続けることとなる。

課題への対応

- ・用地取得のできた区間から道路整備を行うことによって道路は概成しており、一定の道路機能は確保している。
- ・完了予定年度に向けた予算を確保しながら整備を進める



大阪都市計画道路 長吉線(旧瓜破長吉線)

①



②



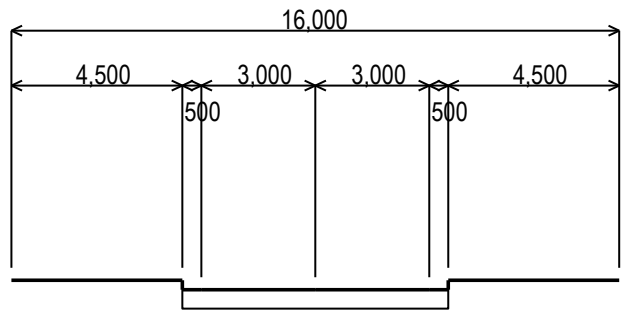
③



長吉線 (旧瓜破長吉線) 事業中箇所 L=665m W=16m



長吉線 標準横断面図



凡 例	
	用地取得済箇所
	整備済箇所
	残用地取得物件
	施工中箇所

用地取得率：98% (面積ベース)
 工事進捗率：99% (面積ベース)
 事業費ベース進捗率：99%